

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	福岡県嘉穂郡穂波町立穂波西中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	26
学級数	4	4	4	1	13	
生徒数	158	130	146	1	434	

研究の概要

1. 研究主題

豊かな心と確かな学力を持つ生徒の育成を目指して
～生徒一人ひとりに応じた学習指導方法の工夫～

2. 研究内容与方法

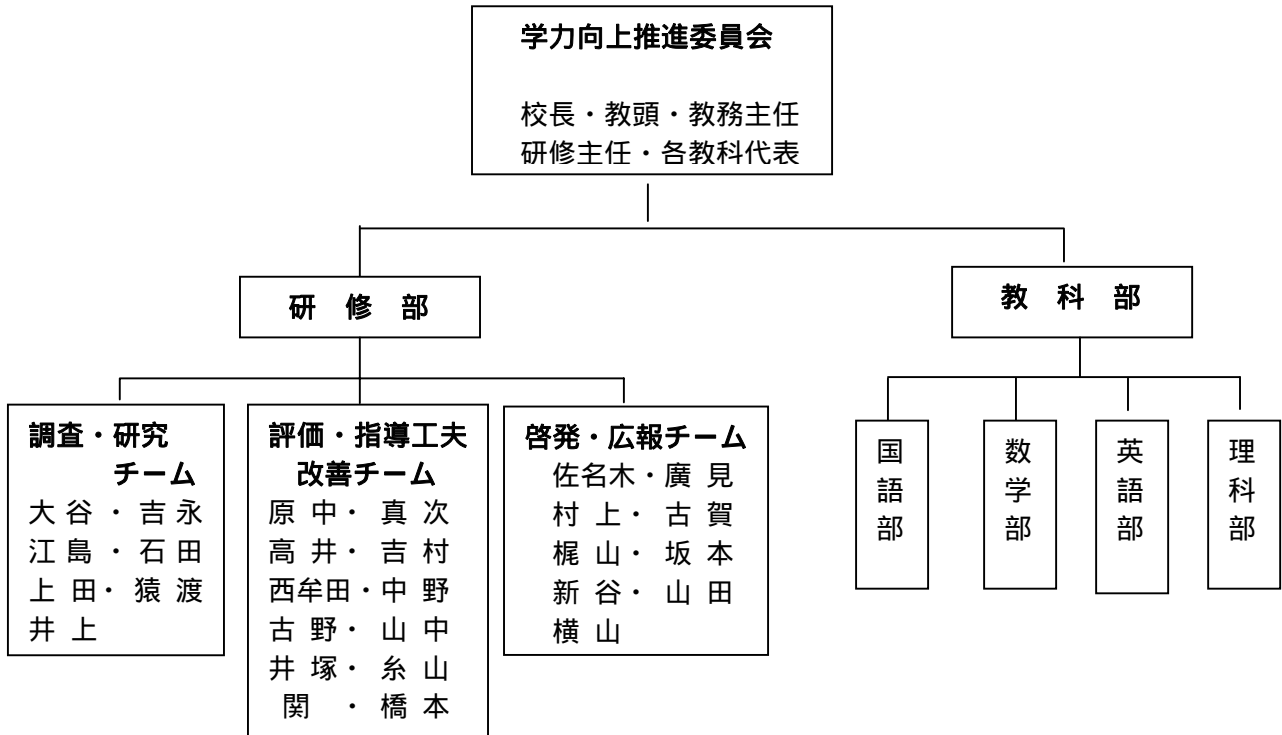
(1) 実施学年・方法

1. 2. 3年生 国語（発展的な学習、補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発を目指し学力向上にとりくむため）
1年生 数学（低学年の段階で少人数指導を行い評価を活用しながら基礎学力の伸長を図るため）
1. 2. 3年生 理科（個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善にとりくむため）
1. 2. 3年生 英語（少人数授業を実施してきた経験を生かし、生徒の興味・関心に応じたコースを設定することで学力の伸長を図るため）

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p style="text-align: center;">テーマ 「豊かな心と確かな学力を持つ生徒の育成を目指して」 ～生徒一人ひとりに応じた学習指導方法の工夫～</p> <p>研究の見通し 生徒一人ひとりに応じた指導方法や指導体制の工夫改善を行うことで、生徒自身が自ら考え、正しく判断し、進んで行動できる力がつけば、豊かな心を育み基礎基本を定着させていくことができ、確かな学力が育成されるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 発展的な学習、補充的な学習・コース別学習などの個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善を行う。 (2) 少人数授業における評価を生かした指導方法の工夫改善を行う。 (3) 全教育活動における豊かな心を育む教材開発を行う。</p>
平成16年度	<p style="text-align: center;">テーマ 「豊かな心と確かな学力を持つ生徒の育成を目指して」 ～生徒一人ひとりに応じた学習指導方法の工夫～</p> <p>研究の見通し 生徒一人ひとりに応じた指導方法や指導体制の工夫改善を行うことで、生徒自身が自ら考え（課題発見）、正しく判断し、進んで行動できる（課題解決）力がつけば、豊かな心を育み基礎基本を定着させていくことができ確かな学力が育成されるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 発展的な学習、補充的な学習・コース別学習などの個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善を行う。 (2) 少人数授業における評価を生かした指導方法の工夫改善を行う。 (3) 全教育活動における豊かな心を育むための教材開発を行う。 (4) 表現の能力や思考判断の能力を培う学習活動の工夫</p>

(3) 研究推進体制



研修部

- 調査・研究チーム
 - ・学力実態調査などの実施・結果集約・分析を行う。
 - ・中間報告、事業実践報告作成への資料の準備及び提供を行う。
- 評価・指導工夫改善チーム
 - ・豊かな心と確かな学力を育てる教材・評価・指導方法の工夫、改善について研究、実践を行う。
 - ・中間報告、事業実践報告作成への資料の準備及び提供を行う。
- 啓発・広報チーム
 - ・学校だより・ホームページ作成などを通しての保護者・地域への啓発広報を行う。
 - ・資料の集約を行い、次年度へとつなぐ取り組みとする。

教科部

- 各部それぞれにおいて
 - ・分科会の運営(司会・記録など)、授業の計画、運営(検証軸生徒の検証作業など)、指導案作成(指導案、資料などの印刷、製本)、授業風景の記録(写真、ビデオ撮影)を行う。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・年度当初に
 1. 「楽しい・わかる授業」に向けた授業の工夫改善を行う。
 2. 一人ひとりに応じた指導法・学習形態の工夫を行う。
 3. 補充学習・家庭学習の充実をはかる。
 4. 学校区小学校・就学前との連携を行う。
 を重点課題として全職員で確認することで、具体的な研究を進めることができた。
- ・「楽しい・わかる授業」に向けた授業の工夫改善や一人ひとりに応じた指導法・学習形態の工夫として、教材の工夫や分割授業・コース別授業に取り組み、きめ細かい指導を行うことで、91.6%の生徒たちが積極的に授業へ参加したと答え、86.1%の生徒たちが授業に集中できたと答えている。77.2%の生徒が分割授業やコース別授業を肯定的に捉えている。
- ・補充学習・家庭学習の充実については、毎日の個人ノート・HR 学習、試験期間中

のレツトライ教室・長期休業中の質問教室、昼休み等を活用しての補充学習・発展学習を行い、生徒の学力の向上と意欲向上を図った。

- ・学校区小学校・就学前との連携においては、中学校から見えてくる課題を整理し、小中連絡会、町同研「学力保障部会」などの機会に小学校に伝え、連携を深めることで、カタカナ・ひらがなの定着、分数計算の定着、ノート作りの大切さの認識、定規の使い方、言葉遣いなどについて共に考えていくことが学力保障につながっていくことを確認し、取り組んでいくことができている。また、中学校から小学校への出前授業や中学校入学説明会における選択制体験授業を行い、小中をつなぐ取り組みも実施している。町内保育園、幼稚園での保育体験は保幼中の連携と共にテーマとしている生徒の心を豊かにする取り組みとなった。

2. 今後の課題

- ・学力実態調査の結果から見ると、本校の生徒は正答率が知識・理解の56.8%に比べ、表現の能力は42.3%、思考・判断は48.4%と低くなっている。これらの結果を、小学校へも提起し、連携して、表現力や思考・判断力を育てることができるよう具体的な取り組みを行っていく必要がある。
- ・教材研究を深め、分割授業・コース別授業・テーマ別授業などにおいて生徒が自主的・意欲的に学習を進め、自ら考え、発表することの出来る機会を取り入れた授業の創造が課題であると考え。
- ・学力実態調査など客観的データによる分析を全職員のものとして、さらに評価とも結びつけた研究を進めていく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- ・各学年各学期ごとの定着度テスト（1、2学期2回 3学期1回）
- ・3年生実力テスト（年3回）及び復習テスト（年3回）
- ・3年生県学力実態調査
- ・1年生CRTテスト（3学期末実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究成果普及のため穂波西中学校HPの中に「学力向上フロンティア」作成
・アドレス <http://ns.oks.or.jp/~nishichu/>にてテーマ、重点課題、学力の捉え方、授業公開についてなどを公開中
- 3月11日（木）「学力向上推進協議会」場所：筑豊教育事務所
学力向上フロンティアスクール研究成果の報告

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|---|---|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3学級以下
<input type="checkbox"/> 7～9学級
<input checked="" type="checkbox"/> 13～15学級 | <input type="checkbox"/> 4～6学級
<input type="checkbox"/> 10～12学級
<input type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導
<input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語
<input type="checkbox"/> 外国語
<input type="checkbox"/> 保健体育 | <input type="checkbox"/> 社会
<input type="checkbox"/> 音楽
<input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 数学
<input type="checkbox"/> 美術 | <input type="checkbox"/> 理科
<input type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 無 | | |